

MR ワクチンの供給が復活しつつあります。

2016.12.04

12月に入って、函館市内近郊ではインフルエンザの声が聞こえてくるようになりました。今のところはA型が主流です。ワクチンは多くの医療機関で受付を締め切っているかもしれません。何事も早めの対策が肝要です。

今年の8月に関東および関西地区で麻しんの流行がありました。関西空港職員が次々と感染に至ったなどの新聞記事を見た方も多いと思います。感染した人のほとんどが麻しんワクチン未接種か1回接種のみの方だったそうです。その対応に使われ、MR（麻しん風疹混合）ワクチンと麻しん単独ワクチンの供給が停止される事態に追い込まれました。9月末には流行が収束したようですが、出生人口の倍の生産しかしないうえに、供給1社は事情によりワクチンの生産が止まるという事態では、必要な本数はなかなか確保できません。国は供給は足りているはずと強弁しましたが、現実には供給は滞り、10月に接種できた人数は通常の三分の一以下でした。

11月になり供給がかなり回復して、接種本数は通常に戻りつつあります。現実的には1歳のお子さんのワクチンを優先して行っているので、年長児のワクチンが通常通りになるのは年明け以降になるものと思われます。

幸いなことに、函館にも北海道にも麻しんの流行が飛び火しなかったため、大混乱は避けられましたが、飛び火していたらと考えるとぞっとします。なぜなら、麻しんは人間にとって最も恐ろしい死に至る病であるからです。その時には病気をやり過ごしても、10年後に亜急性硬化性全脳炎という予後不良の合併症を発症することがあります。

1歳でのMRワクチンは1歳のお誕生日を迎えないと打つことができませんが、年長児のワクチンは4月から順次行うことができます。まだ6歳になってないから、うっかり忘れていたなどでワクチンを打たないでいると、このような事態がまた来年も起こりうるようになります。何事も早めの対応が肝要です。